



明化の教育

3月号(第454号)
平成30年2月28日
文京区立明化小学校
校長 溝畑 直樹

それぞれの出発へ -巣立ちゆく6年生-

校長 溝畑 直樹

出発 井上 靖

ぼくは マラソン競争で
白いスタート=ラインに並ぶ時が好きだ。
軽くしをうかせ きっと遠い前方の山をうかがう
あのしゅんかんのぴんと張った気持ちが好きだ。
やがて、ふえは鳴りひびくだろう。
ぼくたちはかけ出す。
校庭を一周し、町をぬけ、村を通り、おかをこえる。
友をぬいたり 友にぬかれたりする。
みなぎってくる
いろいろの思いを静かにおさえて
先生のふえの合図を静かに待っている
あの不思議に静かで、
豊かな、
出発の時が好きだ。



6年生は間もなく卒業の時を迎えます。天真爛漫な人たちが一つにまとまった時のエネルギーは本当に素晴らしかった。移動教室の清掃活動では「史上最高」の声を宿舎の方から何度もいただきました。聴衆の心を揺さぶる澄み切った歌声も忘れられません。55人のリーダーたちそれぞれの未来に、幸多かれと心から祈ります。これまでありがとう。さようなら。

学校の決算書ともいえる「学校評価」がまとまりました。保護者、地域のみなさまには、学校評価に対しご協力をいただき、ありがとうございます。その結果、本校の教育活動については、99.5%の方から「満足」とご回答をいただきました。学校教育が、保護者=地域=学校の三者の関係の中で行われるものであることを考えるならば、この99.5%という数字は、学校だけでなく、保護者、地域も含めたこの町の総合的な教育力に対する評価とも言えます。この地域で育つ子供たちは本当に幸せです。

一方、「返事、挨拶、後始末」や「規範意識」については、改善傾向がみられるものの、引き続き課題が残りました。学校関係者評価委員会では、東洋大学の須田先生から「子供の自己肯定感を高めつつ、規範意識を育てる取組が必要」とのご指摘もいただきました。次年度は、人権尊重教育推進校の取組を通し、「自分や他者を大切にするとはどういうことか」を子供たちと共に考えながら、自らの生活を律することができる強く、しなやかな心の子供たちを育てていきます。学校評価の詳細については、別に文書で報告いたしますのでご覧ください。来る平成30年度も明化小学校にどうぞ変わらぬご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。一年間のご支援に心から感謝いたします。